

稀少種ヒクラゲ（刺胞動物門，箱虫綱，アンドンクラゲ科）の 触手断片とその刺傷

久保田 信^{1*}・岡田 真一²・山田 豊隆³

^{1*} 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所

² 〒654-0048 兵庫県神戸市須磨区衣掛町 2-4-2 神戸市漁業協同組合 東須磨漁業振興会

³ 〒654-0073 兵庫県神戸市須磨区関守町 3-3-10

Sting by tentacle fragments of a rare medusa of *Tamoya haplonema* (Cnidaria, Cubozoa, Carybdeidae)

Shin Kubota^{1*}, Shinichi Okada² and Toyotaka Yamada³

^{1*} Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center,
Kyoto University, 459 Shirahama town, Nishimuro, Wakayama, 649-2211 Japan

² Kobe-city Fisheries Co-operative Association 2-4-2 Kinugake, Suma, Kobe,
Hyogo Prefecture, 654-0048 Japan

³ 3-3-10 Sekimori, Suma, Kobe, Hyogo Prefecture, 654-0073 Japan

Abstract. In September to November, 2011 tentacle fragments of a rare medusa of *Tamoya haplonema* (up to several ten cm long and 0.5 cm wide) attached to fishing gear was collected six times in the eastern part of the Inland Sea of Japan (Hyogo Prefecture, Japan) and their sting was reported.

Key words: *Tamoya*, medusa, tentacle, sting, fishery, Inland Sea of Japan

（要約）

兵庫県長田港沖から須磨海岸沖までの水深 15 ～ 20 m 地点で 2011 年 7 月～ 11 月にタコ籠漁でひっかかったヒクラゲ触手（長さ数十 cm、幅 0.5 cm 程度）を 6 度採取した。この内、2 度で人体への刺傷被害が起きた。

はじめに

大形のヒクラゲ *Tamoya haplonema* Müller との紀伊水道およびその周辺海域付近での遭遇は極めて稀で、和歌山県田辺湾周辺海域や日高郡みなべ町ならびに和歌山市加太港、加えて大阪府岬町多奈川沿岸域で、傘径 90 – 140 mm (N=6)

との遭遇報告があるだけである（久保田, 1998; 上野ら, 2001; 大塚ら, 2009; 森ら, 2010）。紀伊水道と隣接した瀬戸内海東端海域において、2011 年に漁業関係者に刺傷被害を起こしたヒクラゲ触手を定期的に採取し、人体への刺傷状況も報告する。

*連絡先 (Corresponding author): kubota.shin.5e@kyoto-u.ac.jp

材料と方法

2011 年、通年行われているタコ籠漁の漁具にひっかかったクラゲ触手を採取した。タコ籠漁は、兵庫県長田港沖から須磨海岸沖までの水深 15 ～ 20 m 地点に設置した籠を明け方（4 ～ 7 時）に回収をする。この時にクラゲ触手はタコ籠（角型のフレームに網がかぶさり、天井面が折りたたまれて開くタイプ）の網やロープに絡んで採取された。この時に偶然起きた刺傷の状況をまとめた。

結果と考察

今回採集したクラゲ触手は通常はピンク色で、長いもので長さ数十 cm 程度、幅 0.5 cm 程度であった。この触手は断片であるが、その形状と色からみて、まさにヒクラゲのものである。ヒクラゲは強い刺胞毒を持つ立方クラゲとして知られ、体長数 cm の稚魚を十分に捕獲する能力さえ有しており（森ら, 2010）、大形のクラゲで毒の量も多い。

この触手は 2011 年には 7 月から確認され、8 月に再度、一ヶ月に 1 度ずつ確認された。8 月の事例ではタコ籠に付いた触手に気付かなかっ

た若い漁師の腕に付着し、その瞬間に痛みを感じ、振り落とそうとしたが取れず、触手の付いた部分が線状に腫れあがり、加えて手で擦った部位もその後ですぐに腫れた。症状は 1 週間ほどひりひりと痛み、1 ヶ月ほどは焼けど痕のように残り、消えるまで 2 ヶ月ほどかかった。2011 年 9 月以降 11 月までにさらに 4 度このような触手断片は見つかった。著者の一人である岡田も 1 回触手に接触したが、触手をすぐに取り去り海水で患部を洗い流したので、接触の瞬間だけ強い痛みを感じたものの、接触後 15 分後に痛みは収まり、被害も少なかった。このように 2011 年 7 月 - 11 月に計 6 度のクラゲ触手の絡まりを確認し、その内の 2 度で人体への被害が出たことになる。なおクラゲ自体の観察はされなかったが、これはクラゲが明け方には水面付近にはいないことによる。瀬戸内海には本種は局所的に集中して生息している可能性もあり（上野ら, 2001; 大塚ら, 2009）、今後刺傷には注意を喚起する。

ヒクラゲはインド洋・太平洋をはじめ大西洋からも報告があるが、分類学上の問題点が指摘されており（Kramp, 1961; Uchida, 1970; Gershwin, 2008; Bentlage et al., 2010）、今後の精査が必要である。

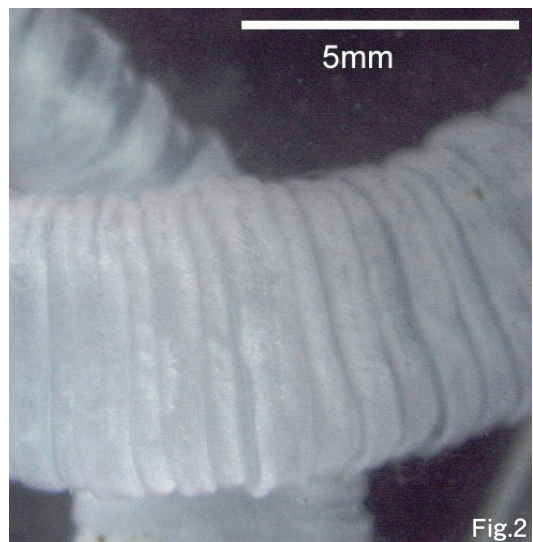


図 1, 2 ヒクラゲの触手の一部 (1) とその拡大 (2) .
Fig. 1, 2. *Tamoya haplonema* tentacle fragments (1) and its enlargement (2).

引用文献

- Bentlage, B., Cartwright, P., Yanagihara, A. A., Lewis, C., Richards, G. and Collins, A. G. 2010. Evolution of box jellyfish (Cnidaria: Cubozoa), a group of highly toxic invertebrates. *Proc. R. B.*, **277**: 493-501.
- Gershwin, L-a., 2008. *Morbakka fenneri*, a new genus and species of Irukandhi jellyfish (Cnidaria: Cubozoa). *Mem. Qd. Mus.*, **54**: 23-33.
- Kramp, P. L., 1961. Synopsis of the medusae of the world. *J. Mar. Biol. Ass.*, **40**: 1-469.
- 久保田 信, 1998. 田辺湾周辺海域の腔腸動物 立方水母目 (刺胞動物門, 立方クラゲ綱). 瀬戸臨海実験所年報, **11**: 33-34.
- 大塚 攻, 上野俊士郎, 藤井直紀, 村井貴史, 重田利拓, 河原正人, 佐々木克明, 下埜敬紀, 高橋卓史, 小島太一, 富川 光, 奥泉和也, 河村真理子, 久保田 信, 2009. 瀬戸内海及び和歌山県西部沿岸における大型立方クラゲのヒクラゲ *Tamoya haplonema* の分布と生態. 2009 年度日本海洋学会春季大会発表講演要旨集, p97, 東京.
- 上野俊士郎, 河村真理子, 佐々木克明, 久保田信, 山口麻美, 2001. 最近のヒクラゲの出現と若干の生物学的観察. 2001 年度日本海洋学会春季大会発表講演要旨集, p84, 東京.
- 森 喜信・久保田 信・上野 俊士郎, 2010. 和歌山県みなべ町沿岸で小型魚類を捕食した稀少種ヒクラゲ (刺胞動物門, 箱虫綱, アンドンクラゲ科). *南紀生物*, **52**(1): 16-17.
- Uchida, T., 1970. Revision of Japanese cubomedusae. *Publ. Seto Mar. Biol. Lab.*, **18**: 289-297.
- (2012 年 3 月 14 日受領, 2012 年 8 月 8 日受理)